



平成30年7月11日
国土交通省九州地方整備局
筑後川ダム統合管理事務所

【速報】 7月6～7日の大雨における

松原ダム・下釜ダム及び大山ダムの防災操作の効果について

松原ダム・下釜ダム及び大山ダムでは、7月6日から7月7日にかけて防災操作を行いましたので、その効果についてお知らせします。

平成30年7月11日

国土交通省 九州地方整備局 筑後川ダム統合管理事務所

独立行政法人 水資源機構 筑後川局

問い合わせ先

【松原ダム・下釜ダムに関すること】

国土交通省 九州地上整備局 筑後川ダム統合管理事務所 副所長 志賀

住 所：福岡県久留米市高野1丁目2番2号

電 話：0942(39)6651(代表)

<http://www.qsr.mlit.go.jp/toukan/>

【大山ダムに関すること】

独立行政法人 水資源機構 筑後川局 総務課長 中山

住 所：福岡県久留米市東町42-21

電 話：0942(34)7001(代表)

<http://www.water.go.jp/chikugo/chikugo>

平成30年7月豪雨における 松原ダム・下笠ダムの防災操作の効果について

松原ダム及び下笠ダムでは、7月6日から7日に防災操作を行いました。
両ダムへ流れてくる水量の一部をダムへ貯めることで、ダム下流へ流す
水量を最大で約6割低減しました。

なお、ダム下流の小^{こぶち}湫水位観測所地点では、河川の水位を約65センチ
メートル低下させる効果があったと推測されます。

・松原、下笠の両ダムでは、7日2時40分に2,126 m^3/s の流入（下笠ダム通過量
を除く）があり、そのうち、1,320 m^3/s を貯留して806 m^3/s を流しました。

・^{とちの}栃野雨量観測所の総雨量：445mm（5日6時～7日5時）

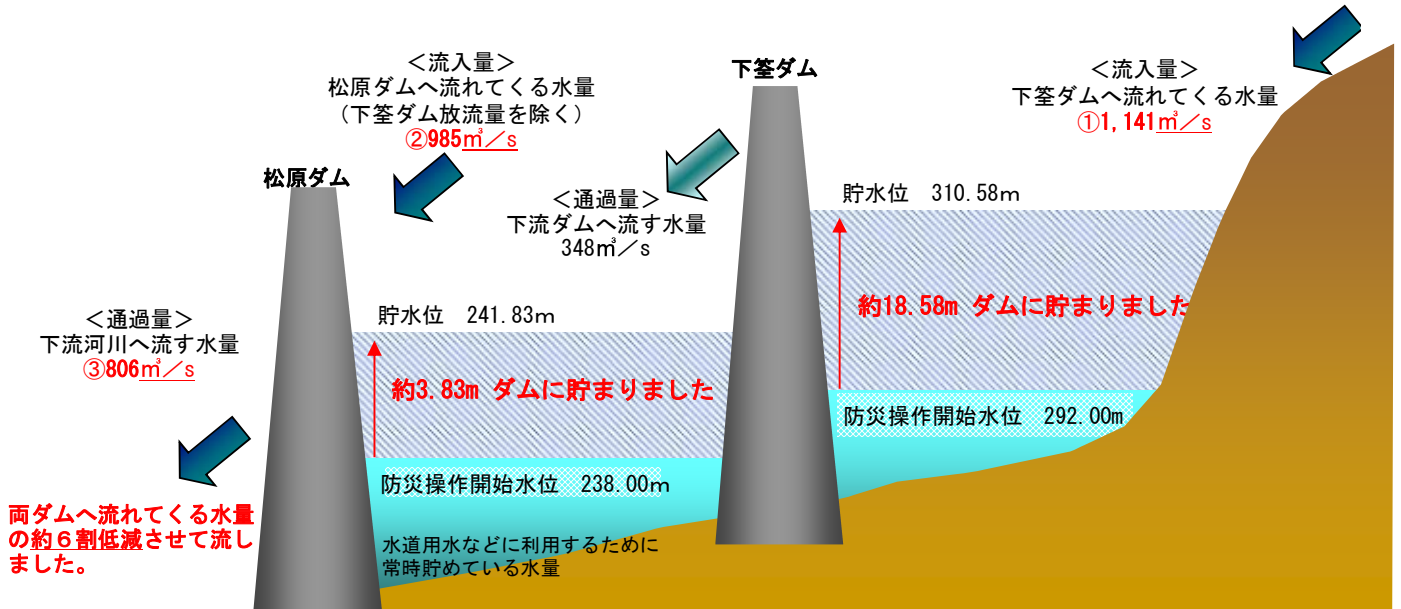
・^{とちの}栃野雨量観測所の最大1時間雨量：36mm（6日11時～12時）

※観測所所在地

・^{こぶち}小湫水位観測所：大分県日田市若宮町地先

・^{とちの}栃野雨量観測所：大分県日田市中津江村栃野原地先

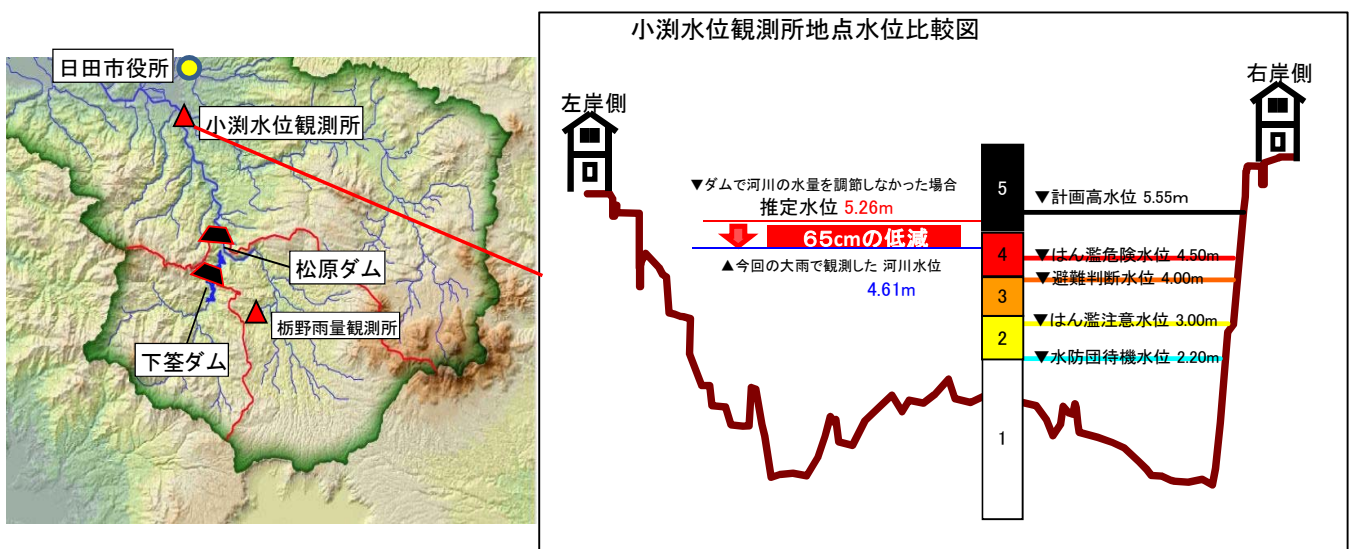
【松原・下釜ダムの操作状況図】 ※松原ダム最大流入時：7月7日,2時40分時点



< 約6割 ≒ 1 - ③ ÷ (① + ②) >

※ 観測値は暫定値のため、確定値ではありません。

【松原・下釜ダムの効果】 ※小湊水位観測所ピーク水位時：7月7日,3時50分時点



平成 30 年 7 月豪雨における 大山ダムの防災操作の効果について

筑後川水系赤石川あかishiがわの大山ダムおおやま（大分県日田市）流域では、平成 30 年 7 月豪雨による大雨により、7 月 5 日 7 時から 7 日 3 時までの総雨量が流域平均で約 402 mm となりました。

この降雨により、大山ダムに流入する水量は最大で毎秒約 160 立方メートル（7 月 6 日 23 時 50 分時点）に達し、平成 25 年の管理開始以降最大のダム流入量となりました。

この洪水に対して大山ダムでは防災操作ぼうさいそうさ※1 を実施し、ダム最大流入時には毎秒 73 立方メートルの水を貯留して、ダム下流の河川水位を低減させました。

ダムに貯めた水の量は、約 85 万立方メートル（福岡ヤフオクドーム約 0.5 杯分に相当する量）に達し、ダム下流河川の被害軽減に大きな効果を発揮することができました。

なお、大山ダムの下流約 8 km にある小淵地点こぶちにおける水位低減効果は検証中です。

※ 1 防災操作 : 大雨により、ダムに流れ込む水の一部をダムに一時的に貯め込んで、ダムから下流に流す量を減らし、下流の川の水位を低減させる操作。

今回の発表は速報値であり、数値等は今後の調査により変わることがあります。

大山ダムの位置図



大山ダムの洪水時防災操作

【流入量】

ダムに流れ込んだ水の量 **最大約160m³/s**

<管理開始以降最大の流入量>

▽洪水時最高水位 EL.259.00m
(洪水時にダムによって一時的に貯留
することとした流水の最高水位)

防災操作後 最高水位 EL.250.98m

▽防災操作前の貯水位 EL.245.09m

平常時の貯水位
EL.245.0m

【放流量】

最大流入時の放流量
約87m³/s
(ダムから下流の河川へ
流した水の量)

(今回の洪水前に水道用水、などに
利用するために貯めていた水の量)

防災操作による大山ダム貯留状況

